CODE 海外災害援助市民センター
2013 年度　事業報告 （案）

【1. 海外災害地への救援活動事業】

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト（ぶどう畑再生支援事業）
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、1560 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 531 世帯（2012 年 3 月末現在）。
実施内容	2003 年から上記 4 村でコーポラティブシューラ（ぶどう生産者協同組合）を立ち上げ、300 万円を原資として 288 世帯への融資をスタートした。融資を受けた世帯はこれを返済し、また新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、延べ 537 世帯が融資を受けた（2013 年 6 月現在）。カウンターパートである NGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援している。 2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）に採択され、農家の方々らを日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、主要な市場であったパキスタンへの輸出が 2010 年頃から禁止されてしまい、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度、2013 年度中には有力な取引先候補が見つからず、他国も含めて検討することとした。 2013 年 2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。これをきっかけに、「日本フェアトレード委員会」（熊本市）の関係者とつながり、ミールバチャコット産の有機干しぶどうを日本で商品化することとなった。2013 年 12 月に 20kg を、2 月に再度 20kg を輸入し、2014 年 3 月現在、試験販売用のパッケージ（1 袋 100g）を準備してきた。 2014 年 3 月 28 日 「れーずんの会」を開催し、18 名の方に参加していただき、レーズン販売やアフガニスタンについて話し合った。今後も継続して開催する。

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民
実施内容	2008 年の四川大地震直後から CODE はスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジアの多国籍のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添って来た。 その後、診療所と村役場を併設した「総合活動センター」建設プロジェクトが政府の都合により変更せざるを得なくなったが、新たに「老年活動センター」建設プロジェクトを提案し、2011 年 6 月に着工、9 月に完成した。 センターは村の中心部 4 組の森に囲まれた場所で、駐車スペースなど総面積約 1000 平

	米、築面積約 380 平米の規模で、釘を一本も使わない木造軸組構法で建築され、中国の伝統木造様式である三合院（3 棟が中庭を囲むようなコの字型のデザイン）で、中には村の高齢者の語らいの場、女性たちの踊りの練習の場、子どもの遊び場にもなっている。住センター中央は住民の会議や祭りやイベントの場として活用され、緊急時の避難所としての役割も持つ。 2011 年 3 月の東日本大震災では光明村を始めとする四川の被災地からたくさんのはがき、横断幕、ビデオなどのメッセージや義捐金 2 万 8000 元（約 36 万円）が届いた。 2011 年 9 月の完成後、鍵の引き渡し式の際には、芹田代表理事やコープこうべの秦理事らにもご列席いただき、盛大に式典が催された。 その後、防腐のためのニス塗りも行い、現在は村民たちが自立に向けてセンターを「農家楽（中国式アグリツーリズム）」として活用している。 2012 年 3 月には、金沢大学との協働で光明村の被災者 3 名を日本に招き、能登半島地震（2007）や東日本大震災の被災地を訪問し、被災者との交流を行った。 2013 年 2 月には CODE10 周年記念シンポジウムに光明村の彭廷国医師が来日し、四川での CODE との活動を語った。その後、アフガニスタン、ハイチのゲストと共に東日本大震災の被災地も訪ね、被災者や支援者との交流を行った。10 周年シンポジウムの際に行った若者のポスターセッションで優勝した神戸大学の学生を四川省の被災地に案内し、被害や復興について学んでいただいた。 2013 年 9 月には、北京より農家楽の専門家である王橋女史（中国社会科学院）を光明村にお招きし、ワークショップを開催した。農家楽の運営を如何に住民参加型で行うかが語られ、今後、住民を巻き込んだ運営の一助となった。 7 月 6 日～12 日　四川省派遣（京都大学研究者の同行・通訳、吉椿事務局長） 7 月 26 日　中国・壹基金来訪（村井理事、吉椿事務局長） 9 月 30 日～10 月 9 日　四川 23 次派遣（吉椿事務局長）

事業名	1-(3)ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～継続中
実施場所	ハイチ共和国ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺住民
実施内容	①CODE 海外研究員・クワゥテモックさんの派遣（2010 年度～2011 年度） 地震直後より、メキシコから CODE 海外研究員のクワゥテモックさんを派遣し、レオガンを中心に支援プロジェクト立案のための調査に入った。海外からの NGO と地元の医師などで Ayuda a Haiti というネットワークを立ち上げ、移動診療所やコミュニティ FM のサポートを幅広く展開した。また、孤児院をまわってレクリエーションを実施するなど孤児のケアにも尽力した。

	②ACSIS への支援（2010 年度～2012 年度） 2010 年 4 月にはラプレンを拠点に活動する被災者団体 ACSIS の緊急物資配布に対して資金面から協力を行った（50 万円）。その後、ACSIS は被災者の生業支援として露天商にチャレンジする女性起業家を中心にマイクロフィナンス事業をスタートさせた。これは、貧しい女性を対象に事業再建資金を融資し、被災によって途切れた収入の回復を支援するものである。2011 年 1 月、約 128 万円（約 15,200ドル）を送金し、40 人の女性に 100～500 米ドルが融資された。2012 年 8 月の訪問では、融資を利用した女性たちが商品や道具を仕入れ、小売店や食堂を再開あるいは起業し、暮らしを立て直している様子をヒアリングできた。初回の完済率は対象者の 7 割程度であり、回収した資金でさらに新たな融資が行われた。しかしその後、体調不良などが原因で返済できない人が増え、回収が困難となっている。 ③「日本ハイチ協会」拠点支援（2012 年度～） 同会は地震後よりポルトープランスで日本語教室や日本文化教室を実施してきた NGO で、2012 年後半からそれまでの拠点が利用できなくなるという状況であった。新たな拠点の家賃 3 年分を支援し、女性や子どもが集まる場として利用していただくとともに、ハイチにおける支援団体がネットワークづくりに活用いただくこととした。2012 年 9 月、計 15,220 ドル（年間 5000ドル。約 130 万円）を送金した。現在、文化交流など各種イベントが行われている。 ④シンポジウムパネリストとして GEDDH 事務局長への招へい（2012 年度） 2012 年 2 月 2 日に開催した 10 周年記念シンポジウムに GEDDH のジャン・クロード・レフェルブさんをパネリストの一人として招き、東日本大震災被災地である岩手県、宮城県を訪れ、被災者との学びあいを行った。 ⑤「GEDDH」農業技術学校支援（2012 年度～） ハイチで結核治療に取り組んで来た日本人医師でシスターの須藤昭子さん（クリスト・ロア宣教修道女会）と2010年に出会い、シスターの設立したNGO「GEDDH」の農業を支援する話が当初から出ていたものの、2011 年、先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。しかし、2012 年 8 月の訪問前に再びその話が持ち上がり、現地でシスター須藤と GEDDH とのミーティングを経て、農業技術学校（ETAL）の建設を支援することが決定した。GEDDHには学校運営の経験が無いことから、2013年5月現地や海外の関係者を含む顧問会（※）が設立され、この顧問会を ETAL の運営者とすることが決まった。 2013 年 7 月に予算約 900～1000 万円で着工したが、8 月に土地の契約や顧問会内での役割分担をめぐる議論が生じ、一時中断となった。12 月、協定が再度まとまり、建設再開の目処が立った。ETAL 名義での銀行口座が開設できしだい送金し、再着工する。シスター須藤の協力で在ハイチ日本大使館からの備品協力支援は次年度に持ち越すことになった。年度末に顧問会のメンバーから学校建設を再開する旨の連絡があった。詳細を確認し次第、2 回目の送金を行う。

	※顧問会メンバー ・ Mr. Sylvio Bourget カナダ人で、ケベック州在住。農業・植林の専門家で、GEDDH 設立時（2005 年頃）から毎年 1 回ハイチに通い、農業を教えている。シスターとは修道会のつながりによる知り合い。 ・ Mr. Jean-Claude Leferve GEDDH 事務局長。2 月のシンポジウムに来日された方。 ・ Mr. Joseph Ustache Estalien GEDDH の中核メンバーで、農業の実務に最も詳しい方。JICA の研修で神戸にも来たことがある。 ・ Mr. Pere Gabriel Blot カトリックの司祭。ドイツの Calitas によって建設された技術専門学校の事務局長。この学校には 6 部門の技術分野（建築、木工、配管、大工、ブリキ工、太陽光発電）があるが農業部門はない。大学ではないが、上級の学校とのこと。教師の給与は Calitas が1年間支援するが、その後は自分たちで賄わなくてはならないため、学校で生産したものを売って備えているという。 ・ Mr. Frere Olizar 聖テレシア会の修道士で、同修道会の総会計。学校の校長もしており学校の管理に慣れている。 ・ CODE 芹田代表 ※Sylvio 氏と CODE は遠隔のため、実務よりもアドバイザー的な関わりになる予定。 《参考》CODE 訪問歴 クワゥテモックさん 第一次: 2010 年 1 月 25 日～3 月 10 日 第二次: 2010 年 3 月 30 日～5 月 15 日 第三次: 2010 年 6 月 17 日～9 月 5 日 第四次: 2010 年 10 月 1 日～12 月 20 日 第五次: 2011 年 1 月 9 日～3 月 31 日 2010 年 8-9 月：野崎理事 2012 年 8 月：芹田代表、岡本 2013 年 5 月：芹田代表、吉椿事務局長 ※2013 年 6 月～7 月には、災害看護支援機構のアテンドとして吉椿事務局長が同行した。 12 月 4 日 シスター須藤が事務所を訪問

事業名	1-(4)中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	2008 年の四川省地震以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」や四川省で共に活動した NGO、ボランティアを通して直後より被災地の状況把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を 2 度青海省に派遣し、同省玉樹で最大の NGO のひとつ「江源発展促進会

	（Snowland Service Group、SSG）」や中国の NGO「生命環懐協会」とのネットワークを築いた。 並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、イアニさん（アラフマイアニ・フェイサル）とも情報交換をしながら連携も模索してきた。そこで 2011 年度よりチベット人には欠かせない牛である「ヤク」を住民で共有して貸し出す「ヤク銀行プロジェクト」の実施に向けて調整を重ねてきた。購入した母ヤクを被災者に貸し出し、乳から作られるチーズやヨーグルト、繁殖後のヤクの肉や毛皮を売ることで生計を建ててもらい、繁殖されたヤクまたは現金で返還してもらう仕組みである。 2012 年 7 月の第 3 次派遣で僧侶や住民、遊牧民、獣医の代表で「ヤク銀行」プロジェクトの委員会が立ちあげられ、2013 年 4 月にイアニさんを現地に派遣し、最終調整を行った。8 月には委員会の協議を経て、最も貧しい遊牧民に優先的にヤクを提供した。提供されたヤクは現在、遊牧民によって飼育・繁殖されている。

事業名	1-(5)インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト（通称：呼び水プロジェクト）
実施日時	2006 年 5 月 27 日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民（ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名）が裨益すると考えられる。
実施内容	2008 年 1 月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落において水道管敷設を支援（同 4 月施工完了）。これを機に集落の人々は水と農業の問題に向き合い、集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた。例えば、浮いた水代をプールして事業向け融資を実施するなどである。 2010 年 7 月、CODE はこの集落の持続可能な暮らし確保に向けて村井理事と岡本が現地を訪れ、その後も集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学等との話し合いを重ねてきたものの、2011 年度後半に、カウンターパートとの連携を担っていた現地キーパーソンがプロジェクトに密に関われなくなったことから、住民は「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。一方、CODE 正会員である神戸学院大学浅野壽夫教授の授業「海外研修」で同集落へのフィールド研修に 2010、2011、2012 年はスタッフの岡本が、2013 年は村井理事が同行させていただき、情報収集を行った。

事業名	1-(6)チリ地震・津波救援プロジェクト
実施日時	2010 年 2 月 27 日～終了
実施場所	高知県、兵庫県
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	特定非営利活動法人災害人道医療支援会（HuMA・東京都）への支援を決定したものの、チリ政府からの救援依頼がなかったため、全額保留となっていた。近年の四川などの海外との被災地交流の意義深さからチリ地震の関係者との交流事業を決定した。

	2010 年のチリ地震・津波で被災者支援を行っている現地 NGO である ICA チリの代表理事である Isabel de la Maza Urrutia （イザベル）さんを日本に招聘し、南海トラフ巨大地震で大きな被害が想定されている高知県を訪問し、現地の津波防災の取り組みを学ぶと共に、チリ地震・津波の経験を伝えた。 12 月 9 日～13 日 「チリ―高知被災地交流事業」で高知へ（吉椿事務局長・頼政） 10 日 四万十町興津地区訪問 （地区総代の案内で津波タワーなどの視察や小学生との交流） 11 日 黒潮町訪問 （町職員の防災活動の説明と案内とイザベルさんとの交流） 12 日 高知市訪問 （高知県立大学でイザベルさんの講義、吉椿の講義 三里地区でのチリ地震報告会） 12 月 14 日 チリ地震・津波報告会（神戸市勤労会館） （室崎副代表理事・村井理事・村上理事・吉椿・岡本・上野）

事業名	1-(7)東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	CODE は、東日本大災害発生後いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011 年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011 年 4 月 1 日から半年間同 NGO にスタッフ二人を出向させた。また、金沢大学と連携し、2012 年 3 月末に中国四川省から被災者 3 名、カウンターパート 1 名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行い、帰国前日には CODE 関係者などと交流会を行った。 2012 年度（2013 年 2 月）には 10 周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト 3 名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者どうしの交流および情報交換を行った。 2013 年度は、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けた事から東日本大震災の被災地との学びあいの企画について、CODE 理事会で提案があった。次年度以降に具体的に検討していく。

事業名	1-(8)メキシコハリケーン救援プロジェクト≪新規≫
実施日時	2013 年 9 月 日～継続中
実施場所	メキシコ
受益対象者の範囲及び予定人数	メキシコ・ゲレーロ州山間部の住民
実施内容	2013 年 9 月 11 日～17 日に同時発生したハリケーン“イングリッド”と熱帯低気圧“マニュ

	エル”により広範な地域が被災した。政府の内務大臣が‘メキシコの国土の 3 分の 2 が被災した‘と発言した。山間部の被災地では土砂崩れなどにより孤立した集落が多くあるにもかかわらず、政府の支援がほとんど行われず、飢餓状態に陥っている地域もある。 CODE はすぐにメキシコシティ在住の CODE 海外研究員、クワテモック氏と連絡を取り、救援活動を開始したが、日本を含め世界的にも報道は少なくCODE への寄付金も約 20 万円のみであった。クワテモック氏は、現地の若者グループ Guerreros por la montana と共に食糧や冬物衣類の配布などを行い、現在も被災地で小規模な支援を行っている。また日本人旅行者の花田さんも先述のグル―プと共に活動し、CODE へ情報を提供してもらった。

事業名	1-(9)フィリピン台風被災地救援プロジェクト≪新規≫
実施日時	2013 年 11 月 8 日～継続中
実施場所	フィリピン　セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバランガイ（最少行政単位）の漁師や女性　約 1000 人
実施内容	2013 年 11 月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan（現地名 Yolanda）は、フィリピン中部のレイテ、サマール、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。CODE は、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014 年 1 月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO、SPFTC（Southern Partner Fair Trade Center）、FIDEC（Fisherfolk Development Center）や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。 また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ（Association）を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO としっかとした信頼関係を築く。 2014 年 3 月に静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の方と吉椿がフィリピンを再訪し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODE の寄付金約 300 万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の 6 つのバランガイ（最小行政単位）にボートを提供し、3 世帯の漁民で 1 つのボートを共有する。 今後、ボートの種類、数、共有方法などの詳細は、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と住民組織（Association）が協議しながら決めていく。 11 月 11 日　救援活動開始 神戸新聞電話取材(吉椿) 11 月 12 日　読売新聞電話取材（吉椿） 11 月 15 日～24 日　フィリピン台風被災地第 1 次派遣（上野、頼政） 11 月 21 日　神戸新聞取材（吉椿） 11 月 26 日　「ラジオ関西・時間です！林編集長」に出演（上野・頼政） 11 月 29 日　毎日新聞取材（吉椿、上野、頼政）

	12 月 2 日　「文化放送・くにまるジャパン」に電話出演（上野） 12 月 3 日　フィリピン台風災害　被災地派遣報告会（村井理事、吉椿、頼政、上野） 神戸新聞、毎日新聞取材 12 月 16 日　神戸大学ぺぱっぷ「フィリピン台風報告会」に参加（頼政） 12 月 25 日　21 世紀研究機構研究会「国際防災協力体制構築の検討」に参加 （吉椿、頼政） 12 月 26 日　ADRC.IRP.DRI「フィリピン合同調査報告会」に参加（吉椿） 1 月 18 日　JICA 関西「フィリピン緊急援助隊報告会」に参加（吉椿） 1 月 22 日　大阪市立大学「フィリピン台風災害報告会」に参加（吉椿） 1 月 30 日～2 月 8 日　フィリピン台風被災地第 2 次派遣（吉椿、上野） 2 月 27 日　神戸新聞取材（吉椿、上野） 朝日新聞取材（吉椿、上野） 毎日新聞取材（吉椿、上野） 2 月 28 日　朝日新聞取材（吉椿、頼政、上野） 3 月 3 日～7 日「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」のアテンド （第 3 次派遣）（吉椿） 3 月 11 日　みなとコンサルティングで支援報告（岡本、上野） 3 月 23 日　朝日新聞電話取材（上野） 3 月 25 日　毎日新聞電話取材（吉椿） 3 月 29 日　フィリピン台風災害　被災地派遣報告会 （室﨑副代表理事、山添理事、村井理事、村上理事、吉椿、岡本、多田、上野）

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	2013 年度より吉椿雅道を事務局長として内外への発信、および事務局体制の充実化を図ってきた。4 月より正式にスタッフとして活動する上野智彦は、関西 NGO 協議会等の勉強会に積極的に参加し、事務局運営やプロジェクト運営についての知識を深めた。2014 年 2 月より新スタッフ多田茉莉絵を迎え、海外業務やネットワーキング面を強化しつつある。 また、2-(3) ボランティアの日の項にもあるように、CODE の活動を経常的に支えてくれる若者のグループをつくることを目指し、学生を中心に関係作りを進めてきたところ、2 名の方がコアなボランティアスタッフとしてかかわって下さるようになった。

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。

囲及び予定人数	
実施内容	5-(1)「CODE 寺子屋学習会」とテーマが近いため、両事業に位置づけた。同項目を参照。

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	3 月 28 日には、アフガニスタン産レーズンをトピックとして CODE の活動を知ってもらい交流する会として「れーずんの会」を開催し、神戸大学 PEPUP や神戸市外国語大学 MANA、神戸女子大学の方など 18 名（スタッフ含む）が参加した。今後もレーズン販売やイベント企画などにも協力していただく。

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	フィリピン台風 Haiyan の支援に際し、UNOCHA 運営の「Reliefweb」に掲載されている情報や現地の英字新聞をボランティアの方に訳していただき、CODE World Voice のブログに掲載した。このとき、全国から翻訳ボランティア・情報収集ボランティアの申し出があり、広く協力いただいた。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学
実施日時	下記の通り
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	約 40 名
実施内容	① 「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣 CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、6 年目となる 2013 年度も継続して神戸学院大学防災・社会貢献ユニットへの講師派遣を下記の通り実施した。 《内容》 4/11（木） 第1回 ガイダンス（浅野壽夫教授、村井雅清理事） 4/18（木） 第2回 阪神淡路大震災とボランティア（村井雅清理事） 4/25（木） 第3回 東日本大震災とボランティア（村井雅清理事）

	5/2（木） 第4回 CODE が担う社会貢献について （吉椿雅道事務局長） 5/9（木） 第5回 東日本大震災とジェンダー （斉藤容子さん） 5/16（木） 第6回 ハイチ地震から学ぶ（岡本千明） 5/23（木） 第7回 災害復興から持続可能な開発プロジェクト （インドネシア・ジョグジャカルタでの取り組み）（岡本千明） 5/30（木） 第8回 アフガニスタンと開発援助（村井雅清理事） 6/6（木） 第9回 農業と持続可能な社会（本野一郎さん） 6/13（木） 第 10 回 四川大地震と CODE プロジェクト（吉椿雅道事務局長） 6/20（木） 第 11 回 災害時における地域力（織田峰彦さん） 6/27（木） 第 12 回 災害復興と行政の役割（斉藤富雄さん） 7/4（木） 第 13 回 地方分権と被災者主体、市民主体とは？（松本誠理事） 7/11（木） 第 14 回 振り返り（浅野教授、村井雅清理事） 7/18（木） 第 15 回 まとめ（浅野教授、村井雅清理事） ②インターンシップ受け入れ 昨年に続き、8/19～27 学生インターン 2 名を計 5 日間受け入れた。 ③フィールド学習への協力 8/21～28、浅野壽夫教授担当のインドネシア・ジャワ島中部地震被災地における「海外研修」に村井理事が同行した（1-(5)参照）。

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 師派遣 7 月 1、8、13 日 追手門学院大学 講義およびフィールドワーク （村井理事・岡本） 9 月 4 日 帝塚山学院大学集中講義 （吉椿事務局長） 1 月 15 日 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿事務局長） ② NGO-JICA 協議会（2014 年 3 月 31 日）および提言専門委員会への参加 5 月 9 日 ポスト HFA への市民社会からの提言集策定 WS に参加（村井理事） 5 月 24 日 NGO・JICA 協議会コーディネーター戦略会議に参加（村井理事） 6 月 7 日 NGO・JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事） 6 月 19 日 平成 25 年度第 1 回 NGO・JICA 協議会に参加（村井理事） 7 月 19 日 「国際防災協力体制構築の検討」研究会に出席（村井理事） 8 月 6 日 NGO-JICA 協議会に出席（村井理事） 8 月 14 日 関西 NGO 協議会提言専門委員会に出席（村井理事） 9 月 9 日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席（村井理事）

	9 月 30 日　NGO-JICA 協議会に出席（村井理事） 10 月 10 日「国際防災協力体制構築の検討」研究会に出席（村井理事） 10 月 18 日　NGO-JICA 協議会の関西勉強会（村井理事、上野） 10 月 26 日　関西 NGO 協議会提言専門委員会（村井理事） 11 月 26 日　NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事） 12 月 10 日　NGO-JICA 協議会 in JICA 関西に参加（村井理事） 2 月 17 日　NGO-JICA　協議会 NGO 側コーディネーター戦略会議に参加（村井理事） 3 月 3 日　NGO-JICA　協議会 JICA 側とのコーディネーター会議に参加（村井理事） 3 月 17 日　NGO-JICA　協議会に参加（村井理事） ③その他

事業名	4-(3) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	①　関西 NGO 協議会の活動への参加 龍谷講座 in 大阪「社会貢献・国際協力入門講座」に参加 10 月 23 日第 1 回「世界とつながる私たちの暮らし」（上野） 10 月 30 日第 2 回「NGO+企業+大学」（上野） 11 月　6 日第 3 回「世界を覆う食糧問題」（上野、吉椿事務局長） 11 月 13 日第 4 回「戦争の現場から。今、伝えたいこと」（上野） ②　TELL-NET フォーラム 2013 への参加予定（吉椿事務局長） 今年度は中国・四川省でフォーラムを開催する予定だったが次年度以降に延期になった。 ③　コープこうべとの連携 9 月 19 日、 コープこうべ災害緊急支援基金で講演（村井理事） 12 月 3 日　フィリピン支援活動報告会（第 1 回） コープこうべから大谷さんなど 3 名の参加 2 月 28 日　コープこうべにてフィリピン台風支援金の贈呈式に参加 （吉椿事務局長） 3 月 29 日　フィリピン支援活動報告会（第 2 回） コープこうべから山添理事など 4 名の参加 その他、アフガニスタンのレーズン輸入に関して相談させていただく等、協力いただいている。 ④　若者のネットワーキング CODE の活動を経常的に支えてくれる若者のグループをつくることを目指し、ネットワ

	ーキングを行った。特に、フィリピンの救援プロジェクトや報告会を通じて、ワカモノヂカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、神戸市外国語大学ボランティアコーナーなどの団体との連携が実現した。 ⑤ その他 5 月 9 日　ポスト HFA への市民社会からの提言集策定 WS に参加（村井理事） 10 月 10 日　21 世紀研究機構研究会「国際防災協力体制構築の検討」に参加（村井理事） 11 月 5 日　アーユス仏教国際協力ネットワーク 20 周年記念シンポジウムに参加（村井理事） 11 月 30 日　JIPPO 設立 5 周年記念シンポジウムに参加（村井） 12 月 25 日　21 世紀研究機構研究会「国際防災協力体制構築の検討」に参加（吉椿事務局長、頼政） 1 月 10 日　2015 国連防災世界会議日本 CSO ネットワーク設立総会に参加（村井理事） 1 月 20 日　DRI 「国際防災・人道支援フォーラム 2014」に参加 （吉椿事務局長） 1 月 21 日 IRP 「国際復興フォーラム 2014」に参加 （吉椿事務局長） 3 月 21 日　ひとぼうユースミーティング 2014 に参加（上野）

事業名	4-(4) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 2013 年 11 月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動する NGO ネットワーク「ABAG! Central Visayas」とのつながりができた。引き続き本ネットワークとの連携を深め、防災や今後の災害救援に活かしていく。 ② インドネシアの若者で作る防災や災害を学ぶグループ、BDSG（Bandung Disaster Study Group）の若者 8 名に対して吉椿事務局長が、CODE についてのレクチャーを行った。（2 月 27 日　CODE 事務所） 今後、インドネシアで災害が起きた場合、彼らと連携する事も可能となった。

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	下記の通り、昨年からの連続企画である若者向けの勉強会を実施した。 5 月 12 日　第 8 回 CODE 若者寺子屋「パキスタン地震・ジャワ島地震」（村井理事）

	6 月 23 日　第 9 回 CODE 若者寺子屋「バングラディシュ、ミャンマー、四川省」 （村井理事、吉椿事務局長） 7 月 27 日　第 10 回 CODE 若者寺子屋「イタリア、青海省」 （吉椿事務局長、尾澤良平　元 CODE スタッフ） 11 月 10 日　第 11 回 CODE 若者寺子屋「総集編」（村井理事） また、2013 年度計画では若者ポスターセッションの実施を挙げていたが、チリ-高知被災地交流事業やフィリピンにおける現地 NGO とのネットワーキングを通して、被災地訪問時の研修・交流の学びの意義の大きさに改めて気付かされた。そのため、計画を変更してより直接的なかかわりを持てる研修等の形を模索したが、年度内の実施にはいたらなかった。次年度に交流・研修という形で実施する。

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2013 年度の賛助会員数は延べ約 100 名・団体、賛助会費は 35 万円であった。なお、2011 年度：約 60 名・団体（約 24 万円）、2012 年度：約 130 名・団体（約 50 万円）であり、金額は前年度を下回っているが、賛助会費よりもフィリピン支援に寄付をいただいたとみられるケースもあるため、比較は難しい。 賛助会員や長期寄付者には機関誌「CODE レター」のみならず、フィリピン台風発生時に支援を呼びかけるハガキを送ったり、報告書を送付する等、災害救援活動をきっかけに寄付者とのコミュニケーションの機会を増やしたことで、いち早い反応をいただくことができた。 ちなみに、フィリピン寄付については、寄付件数の約 1/3（約 80 件）がクレジットカード（ネット決済）によるものであり、その多くが新規の寄付者であった。災害自体の注目度も高かったが、CODE の SNS での発信の効果が反映されたものと思われる。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	①　当団体主催の報告会は以下の通り。 12 月 3 日　フィリピン台風報告会（参加者 67 名　） 12 月 14 日　チリ地震・津波報告会（参加者 13 名） 3 月 29 日　フィリピン台風報告会（参加者約 33 名）

	② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。 4 月 22 日 MBS ラジオ「四川省雅安地震」出演（吉椿） 4 月 23 日 ラジオ関西「四川省雅安地震」出演（吉椿） 7 月 1、8 日 追手門大学で講義（岡本 ※4-(2)と重掲） 7 月 13 日 追手門大学のフィールドワーク（村井理事・岡本 ※4-(2)と重掲） 7 月 16 日 神戸大学で講義（吉椿） 8 月 8 日 神戸市教育委員会「副読本」製作取材（吉椿） 8 月 26 日 FM わいわい「アンクルトムの笑顔の宅配便」出演（村上理事、吉椿） 9 月 4 日 帝塚山学院大学で集中講義（吉椿※4-(2)と重掲） 9 月 10 日 兵庫県立大学国際ユースフォーラムにてワークショップ（吉椿、岡本、上野） 9 月 26 日 舞子高等学校環境防災科で講義（吉椿） 10 月 16 日 関西学院大学ライフデザイン入門講義（村井理事） 10 月 18 日 明石あかねヶ丘高齢者大学で講演（吉椿） 11 月 1 日 「減災社会に向けたグローカル人材育成プログラム」 （北陸学院大学主催）で講義（吉椿） 11 月 5 日 神戸大学国際協力研究科で講義「巨大地震に備えた減災戦略」（吉椿、岡本） 11 月 16 日 兵庫県立大学で講義「災害と人と健康」（吉椿） 1 月 15 日 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿 ※4-(2)と重掲） 1 月 9、16、21 日 神戸市立楠高校で講義（吉椿）

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年 3 回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地約 2000 人／団体 インターネットは不特定多数
実施内容	機関誌を 4 月（約 530 通）、7 月（約 530 通）、1 月（約 770 通）の計 3 回発行した。特に 1 月には、フィリピン台風で新規に CODE を支援して下さった方にも継続支援をアピールしたが、発災から 5 か月を過ぎ、寄付件数は大幅に減少している。 インターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用しての情報発信に力を入れ、これまでと異なる層からの反響があった（Facebook の閲覧数は 1 記事あたり数百～約 1000、「いいね！」は 1 記事あたり 10～20 程度。フィリピン台風直後、約 7000 人がこの情報を見る事が出来る環境にあった）。さらに、6-(1)で述べたように、フィリピン寄付については寄付件数の約 1/3（約 80 件）がクレジットカード（ネット決済）によるものであり、その多くが新規の寄付者であった。災害自体の注目度も高かったが、SNS での発信の効果が反映されたものと思われる。 3 月にはボランティアの協力でホームページもリニューアルし、より情報が探しやすくアピール性の高いものとなった。

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2011 年 10 月度理事会で CODE AID を立ち上げることを決定したが、2012 年度になり認定 NPO 法人の取得には最低 2 年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10 周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。 なお、理事候補は浅野壽夫氏（神戸学院大学教授）、大森保美氏（株式会社大森工業社長）、林晃史氏（弁護士）、芹田健太郎現 CODE 代表理事（神戸大学名誉教授）の 4 名、監事候補は安井一浩氏（公認会計士・神戸学院大学准教授）である。2013 年度の総会および懇親会「CODE のタベ」には、大森氏および林氏に参加いただいた。

事業名	7-(2) CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	本奨学金制度は、2005 年度にはじまり 2011 年度で 8 年目となった。初年度の該当者で元 CODE スタッフ斉藤容子さんの留学に際する壮行会にて集まった資金 53 万円を元手として、全額が奨学金として手渡された。以後の該当者はなかったため実施していない。なお、斉藤さんの返済により、2013 年度末の基金残高は 269,000 円となっている。

事業名	7-(3)その他≪新設≫
実施日時	随時
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	5 月 11 日 、神戸新聞社会賞を受賞した。受賞式には、芹田代表理事、室崎副代表理事、村井理事、吉椿事務局長、細川が参列した。